



利門
 第 1433
 卷 3 止

三冊目

七

讀品



金比羅山に依る

すむねや神の後より来るを

三

大足原ある素ふたつに文かいく

き行りるゝあつと馬こころを

九重の藤やうふれんて敷れぬ

鞍重人板原けや被法作

七金坊

所よりいんこころを

素



大いふ糸

糸

ちりちりを振る糸は糸の糸

あつた糸は糸の糸

飄々とした糸の糸

糸

ちりちりを振る糸は糸の糸

糸

ちりちりを振る糸は糸の糸
糸の糸は糸の糸
糸の糸は糸の糸
糸の糸は糸の糸

糸の糸は糸の糸
糸の糸は糸の糸
糸の糸は糸の糸
糸の糸は糸の糸

ちりちりを振る糸は糸の糸

糸

ちりちりを振る糸は糸の糸

糸

ちりちりを振る糸は糸の糸

糸

ちりちりを振る糸は糸の糸

ちりちりを振る糸は糸の糸

糸

糸

維新一折

七五

く山いの鞍よなや都也

月よとちたての作のき

長

新きまをくく一ふのき

冬

くゆくぬ鉄提のき

山

行捨の世をて狭ふ能き

四

思へきなる行のき

提

ふきとまなるふきとま

苦

ふきとまなるふきとま

雄

ふきとまなるふきとま

作

ふきとまなるふきとま

需

ふきとまなるふきとま

世

ふきとまなるふきとま

ふ

名録

園くふくくくくくく

世

ふきとまなるふきとま

世

程下

四

右 左 場

七

48

九

卷下

i.

地さうのひやれんちんがし、
 やうなはの難もなう後追のたれ
 るはゆんあうくそそ地はたれ
 けいハ又海山のふちあうそあうそ
 地地ハ正風の国にふくは
 祖教をいぐるむねーふくむねー
 二つの地と島ー強治のち人の地と
 威ー地ハ一運のふちあうそ
 内国のあうてりゆふに運のふち
 ちあーそれの中も抗教のそふの
 水く地ハ例にふくふやれもあう

月と強教の地像とさうそそそ
 えあう内者携りてさうそそそ
 延とさうそそそそそそそ

和

和

ちあうそそそそそそそ
 ちあうそそそそそそそ
 ちあうそそそそそそそ
 ちあうそそそそそそそ

○
宿の香たふも花ふゆふ
花の野やちんくろ綾錦
た 九

追加

古澤雅坊のりゆもまうこれ名
あらに袖といふれ葉月れゆ
ありしゆく神楽月のふふふ
むくねく

かまね
雅坊

空く花ふふふふふふふ

空く花ふふふふふふふ
たふふ

空く花ふふふふふふふ
順吉

空く花ふふふふふふふ
永五

大徳寺

當座

空く花ふふふふふふふ
羅

空く花ふふふふふふふ
順吉

空く花ふふふふふふふ
東五

油んぐく文れはあふまふが 島

法園文通

あふまふまふ

うーりあふまふまふ	佳
あふまふまふまふ	白
うかまふまふまふ	る

あふまふまふまふ	一
あふまふまふまふ	望
あふまふまふまふ	方
あふまふまふまふ	車
あふまふまふまふ	中
あふまふまふまふ	更

父もすむるさる白のふり 新井 十三

梅もすむるさる 村上 十三

とらふたあふふ 知程

梅のふりふふ 佳苑

とらふのふふ 中章

とらふのふふ 出菊

とらふのふふ 龜川

とらふのふふ 菊

とらふのふふ 吉田 ねね

とらふのふふ 黒中 城

とらふのふふ 東板橋

とらふのふふ 文好

とらふのふふ 咲日

とらふのふふ 花

とらふのふふ 福吉 平

とらふのふふ 新野 孝

おとよし〜押さへぬるゝ

依河 柳肥

〜い〜い〜い〜い〜い〜い

東氏 楚席

〜い〜い〜い〜い〜い〜い

市声

おとよし〜い〜い〜い〜い〜い

子里

〜い〜い〜い〜い〜い〜い

柳舟

〜い〜い〜い〜い〜い〜い

林近

〜い〜い〜い〜い〜い〜い

鳥根

〜い〜い〜い〜い〜い〜い

鳥根

〜い〜い〜い〜い〜い〜い

鳥根

〜い〜い〜い〜い〜い〜い

鳥根

〜い〜い〜い〜い〜い〜い

鳥根

〜い〜い〜い〜い〜い〜い

鳥根

〜い〜い〜い〜い〜い〜い

鳥根

〜い〜い〜い〜い〜い〜い

鳥根

〜い〜い〜い〜い〜い〜い

鳥根

〜い〜い〜い〜い〜い〜い

鳥根

材

菊の香の秋の日はあふる處

龍之吟也
如
如

乃月也移の黒く啼く鳥
芳菊

山麓新塾中
仰光

東之
竹
之
新
乙

唐列砥封

意園

皇太子の勅を
吟る

新嘉坡新嘉坡新嘉坡
新嘉坡新嘉坡新嘉坡

柳々々々々々
徐家

美事を以て用ひてゐる

雨ふりぬる声ありおとすゝ

鳴るをむくは
くろくろくろ
後志秋
雪程

ふきや月のいそふそ
ては秋
度

酒のくさきやうな月の
一
柯

第以乃
乃以新
乃以梅
乃以己
乃以

大紳

龍乃定角于一空如月
去虎

卷之四

ねむや夢をみても 柳川 花月

花月 柳川 仲余

柳川 柳川 上條と修

柳川 柳川 上條と修

柳川 柳川 上條と修

柳川 柳川 上條と修

柳川 柳川 上條と修

柳川 柳川 上條と修

柳川 柳川 上條と修

柳川 柳川 上條と修

柳川 柳川 上條と修

柳川 柳川 上條と修

柳川 柳川 上條と修

柳川 柳川 上條と修

柳川 柳川 上條と修

柳川 柳川 上條と修

柳川 柳川 上條と修

松

八

ゆも 帆も 花も かくも なる なる 如葉

ふも 花も 花も なる なる なる 如葉

ふも 花も 花も なる なる なる 百和

ふも 花も 花も なる なる なる 三葉

ふも 花も 花も なる なる なる 芳水

ふも 花も 花も なる なる なる 玉葩

ふも 花も 花も なる なる なる 楓若

ふも 花も 花も なる なる なる 花若

ふも 花も 花も なる なる なる 一歩

ふも 花も 花も なる なる なる なる

ふも 花も 花も なる なる なる なる

ふも 花も 花も なる なる なる なる

ふも 花も 花も なる なる なる なる

ふも 花も 花も なる なる なる なる

ふも 花も 花も なる なる なる なる

ふも 花も 花も なる なる なる なる

松

八

オノノ

知

伍毒

金凡

心友

素乾

文記

珍選

雨

卷之七

卷之五

五

無心

佳示

五

卷二

三

卷之五

卷之四

掛
下

方如
ふらに
乾く
獨り
野地
之
也

野地

之

五侯七貴のくわ初
 以和 生和
 集和

生

集和

糸やうくちなはさて買ふやあや久米
 左太右
 重宝

左大坊

金

江戸
 入田村
 正雅

入田村

五

海之乃水也
可飲也
其味也

可成德

Handwritten signature: *Handwritten signature*

王右軍尺牘中
傳掌

傳牽

所傳の油に、
香ありといふ

念

文て佐高
町新のまゝ
うね

吟

高田くさ月夜をたぬる
ふた

不
能

塙内伝行々楠の洞
梅舎

拙舍

凡之乾く海峽ハ必一カ月
成章

成

分香時
照此
似今
此亦
好
卷五

卷五

惟求自足
 不事外物
 布中連
 三等

市中市

三等

御目
被
中
里
々
雨
香

雨香

おくに字や棟の所より
す枝

荔枝

蘭の葉はるる花の如
弓雄

弓雄

新古今はあらふ菊のふ入れ 芳川

り花もむくはひらう花の饅 夷雅

えくも花色直垂たふちてさる 東何

将りしういふかちたきさふ た一

あふはのたきあれて秋ふぬ 拾村 玖成

帰るしやめさうー巨魁う那 徳信

しー奴のわのうと入江のう 川端 荷香

梅う香れ中に花けー小家うぬ 如蓮

水は心きと化れし十夜う南 小津 中子

新の板るくあらうきう那 三阿

押しよきさのさきや木娘人 枕水

よかしきてよきさうや花さき 満山

水さきもさき捨れぬと野水 下村 冠里

さきさきふちいふちたけさ 花洲

新古今はあらふ新や花散る 魯秋

よきさや風の板さうさき 成康 素宗

下におかしきならざる小柳屋 杖京 二葉

まはるきやうあるもまはるき 曾一

るまのあやう 瀬田の村のお 百九

秋のやうき あやうき 僧 山

改しれり 今れ 小六月 山

川柳や 砂のよう また 柳 可圭

小おや てふ あやう あやう 張 和

さう 代 あやう あやう 張 和

あ あやう あやう あやう 月 和

川柳や あやう あやう あやう 中 佳

あ あやう あやう あやう あやう 浅川 馬

あ あやう あやう あやう あやう 古 丁

あ あやう あやう あやう あやう 完 吟 宇

あ あやう あやう あやう あやう 伊勢川 北

あ あやう あやう あやう あやう 大 所 清

あ あやう あやう あやう あやう 石 列 日 貫 島

よゝ訓さふさふさふさふさふさふさ 及文

ふぬしねの事ゆやふさ月 井原 高磨

電ふふふふふふふふふふふふ 長崎 狂松

能くやまふふふふふふふふふふ 士文

常はなるふふふふふふふふふふ 長崎 五三

吾てより大上の信やねの鐘 長崎 五三

ふふふふふふふふふふふふふふ 長崎 五三

ふふふふふふふふふふふふふふ 長崎 五三

ふふふふふふふふふふふふふふ 長崎 五三

ふふふふふふふふふふふふふふ 長崎 五三

ふふふふふふふふふふふふふふ 長崎 五三

ふふふふふふふふふふふふふふ 長崎 五三

ふふふふふふふふふふふふふふ 長崎 五三

ふふふふふふふふふふふふふふ 長崎 五三

ふふふふふふふふふふふふふふ 長崎 五三

ふふふふふふふふふふふふふふ 長崎 五三

ふふふふふふふふふふふふふふ 長崎 五三

故をきくもまじりてをきく 十呂

祈りてふはあはれをきく 房

ふはふのはあはれをきく 五中

ふはふのはあはれをきく 僧 央

ふはふのはあはれをきく 芳水

ふはふのはあはれをきく 呂井

ふはふのはあはれをきく 松波

ふはふのはあはれをきく 貞子

ふはふのはあはれをきく 三芳

ふはふのはあはれをきく 圃也

ふはふのはあはれをきく 羅一

ふはふのはあはれをきく 生記

ふはふのはあはれをきく 生記

ふはふのはあはれをきく 二菊

ふはふのはあはれをきく 省吾

ふはふのはあはれをきく 和文

ふれりしはふれりしをば 永水

ほろけりしはふれりしをば 似榮

世の中なるはふれりしをば 斗子

外丹丸なるはふれりしをば 九如

神のふれりしはふれりしをば 常寧

早人ふれりしはふれりしをば 舟如

ふれりしはふれりしをば 理葉

ふれりしはふれりしをば 世終

クリヤラ

芳智くのふれりしをば 亦也

乾龍ふれりしはふれりしをば 仁明

ふれりしはふれりしをば 仁明

仁明

ふれりしはふれりしをば 車馬

車馬

ふれりしはふれりしをば 生就

ふれりしはふれりしをば 路丁

ふれりしはふれりしをば 新子

ふれりしはふれりしをば 玄虎

かり〜なやれ〜と揺るるる秋
 戸板に〜さきま〜い〜と枕のむ
 中庭裏に〜風と〜うらるる月の
 くの影や月も二とれ初る葉
 和や〜小斗の越や別ま〜と
 有るや小るは声の傳ふ新
 灯と寒く〜と揺るる風うゑ
 夕暮の〜なほあふるやねの露
 西海

星淵
 梨葉
 月夜
 生栞
 舊之
 湖六
 二十

月〜とれ〜と揺るるる秋
 戸板に〜さきま〜い〜と枕のむ
 中庭裏に〜風と〜うらるる月の
 くの影や月も二とれ初る葉
 和や〜小斗の越や別ま〜と
 有るや小るは声の傳ふ新
 灯と寒く〜と揺るる風うゑ
 夕暮の〜なほあふるやねの露
 西海

星淵
 梨葉
 月夜
 生栞
 舊之
 湖六
 二十

又けとるあぢとふのほく本 健二

あふふれたたのきむあふふれ 宇伯

むハふりあふふれあふれ 与木

あふふれあふふれあふれ 文孝

一ふふれあふふれあふれ 重朝

あふふれあふふれあふれ 名古た 善次

あふふれあふふれあふれ 年幸

あふふれあふふれあふれ 茶桐

あふふれあふふれあふれ 朝信

追加

あふふれあふふれあふれ 名古た 年幸

あふふれあふふれあふれ 茶桐

あふふれあふふれあふれ 朝信

あふふれあふふれあふれ

あふふれあふふれあふれ

又やうある事
をいれたい
探して古集の
所をいふ
一節

紙筆

紙と筆
茶臼

書板

三
野田
書板

